

資源評価調査

和田隆史・岡崎孝博・杉本善彦・鎌田信一郎・今治美久・
萩野鉄男・悦田 明・三浦 勇・原田 純・國井秀人

本調査の目的は、国連海洋法条約の発効に伴い我が国水域内の水産資源の漁獲可能量(TAC)を決定して水産資源の有効利用及び管理を行うために必要な資料を収集することである。水産庁からの委託により、調査を実施した。以下に、平成23年度調査の内容と実施状況の概要を記す。

1. 漁獲成績報告書の収集

中型まき網1統の漁獲成績報告書を整理した。

2. 漁法別漁獲状況

次の各漁協の漁法別漁獲量を集計した。

(1) 内海

北灘：定置網・小型底びき網のマダイ

鳴門町：一本釣のマダイ

徳島市：小型底びき網のマダイ・ヒラメ

椿泊：定置網・小型底びき網のマダイ、定置網・小型底びき網・刺網のヒラメ、延縄のトラフグ・サワラ

橘町：釣・延縄のトラフグ・サワラ

(2) 外海

東由岐：定置網のマイワシ・カタクチイワシ・ウルメイワシ・マアジ・サバ類・ブリ・マダイ

牟岐東：釣のマダイ・マアジ・サバ類・ブリ

牟岐町：定置網のマイワシ・カタクチイワシ・ウルメイワシ・マアジ・サバ類・ブリ・マダイ

鞆浦：大型定置網のマイワシ・カタクチイワシ・ウルメイワシ・マアジ・サバ類・ブリ・マダイ

穴喰：定置網のマイワシ・カタクチイワシ・ウルメイワシ・マアジ・サバ類・ブリ・マダイ

3. 船びき網操業実態調査

次の標本船日誌調査を実施した。

徳島市漁協1統、和田島漁協7統、橘町漁協1統、阿南漁協5統によるシラスの漁獲量及び操業場所等の操業日誌(周年)

4. 生物測定調査

(1) 体長測定調査

次の各漁協の対象魚種の体長を測定した。

和田島・阿南：カタクチイワシシラス

椿泊・穴喰：マイワシ・カタクチイワシ・ウルメイワシ・マアジ・サバ類

徳島市：カタクチイワシ成魚

(2) 魚体精密測定調査

(1)体長測定調査の 及び に記載した調査地、魚種について、月1回、体長、体重、性及び生殖腺重量を測定した(精密測定)。

5. 魚卵稚仔量調査

イワシ類・アジ・サバ類等の卵稚仔量を把握するため、次の調査を実施した。

(1) 調査海区：播磨灘海区、紀伊水道海区、海部沿岸、海部沖合

(2) 調査項目：卵稚仔

(3) 調査方法：改良型ノルパックネット(口径45×高さ180cm、オープニング0.335mm)の垂直曳き

(4) 調査点数

改良型ノルパックネット：播磨灘2点/月、紀伊水道12点/月、海部沿岸12点/月、海部沖合3点/3月(海部沖合は5、11、3月に実施)

6. 資源動向調査

タチウオとムロアジ類について、関係県と連携を図り、資源をモニタリングした。

(1)タチウオ

標本船日誌調査：底びき網(徳島市3隻)

網別出量隻数把握調査：底びき網(徳島市)

銘柄別魚体測定：底びき網(徳島市)

(2)ムロアジ類

中型まき網1統と定置網(大型定置網：鞆浦、小型定置網：穴喰)の漁獲物の漁獲量集計

中型まき網1統と小型定置網(穴喰)の魚体測定および精密測定(月1回)

7. 調査結果の報告

得られたデータは、電子情報に変換した後、我が国周辺漁業資源調査情報システム(FRESCO)により関係先へ電送した。

また、瀬戸内海ブロックと中央ブロック資源評価会議及び漁海況予報会議等に参加し、資源評価票及び漁海況予報について検討した。